

三条教区通信

第 40 号

発行日 2010年10月1日
発行者 三条教務所長 藤坂 初裕
発行所 真宗大谷派三条教務所
〒955-0071 三条市本町 2-1-57
E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp
URL : <http://www.gobosama.net>

★本通信は上記 URL からご覧いただけます。

今月の法語

[法語カレンダーより]

信心の人を

真の仏弟子といえり

【親鸞聖人血脈文集】

研修会等ご案内

■教区女性研修会

開催案内既送

- ◆ 日時 2010年10月5日(火)
- ◆ 会場 教区同朋会館
- ◆ 講師 古田 和弘 氏 (大谷大学名誉教授)
- ◆ テーマ 「御遠忌を迎えるところ
～宗祖としての親鸞聖人に遇う」
- ◆ 対象 教区内有縁の方
- ◆ 参加費 1,500円
- ◆ 問合せ 三条教務所(担当:史陀)まで。
[主催:「女性研修会」部門]

■教区推進員研修会

開催案内既送

- ◆ 日程 10月7日(木)午前10時～午後4時
- ◆ 会場 三条別院・教区同朋会館
(三条市本町 2-1-57 FAX0256-33-2805)
- ◆ 講師 青木 新門 氏 (作家)※映画『おくりびと』の原点となった『納棺夫日記』著者
- ◆ 講題 「いのちのバトンタッチ」—映画「おくりびと」に寄せて
- ◆ 会費 1,500円(昼食代含む)
※詳細は同封案内状をご覧ください。

■「差別と真宗」基礎講座

開催案内同封

- ◆ 日時 2010年10月19日(火)
- ◆ 会場 佐渡組 専念寺
- ◆ 講師 村山 教二 氏 (差別と真宗研修部門
スタッフ・11組願興寺衆徒)
- ◆ テーマ 「何故、部落差別問題が、真宗門徒の課題となるのか」
- ◆ 対象 教区内有縁の方
- ◆ 参加費 500円
- ◆ 問合せ 三条教務所(担当:北島・史陀)まで。

■秋季声明講習会

開催案内既送

- ◆ 日時 2010年10月20日(水)
- ◆ 会場 三条教区同朋会館
- ◆ 内容 御遠忌に向けての講義と講習
- ◆ 講師 藤澤 善夫 氏 (本山堂衆)
- ◆ 受講料 500円
- ◆ 問合せ 三条教務所(担当:五辻)まで。
[主催:「声明講習会」部門]

■第30回法灯の集い

開催案内同封

- ◆ 期間 2010年12月6日(月)14時受付
～7日(火)11時解散
- ◆ 会場 ほてる大橋館の湯(岩室温泉)
〒953-0104 新潟県新潟市西蒲
区岩室温泉 340 甲
Tel(0256)82-4125
- ◆ 講師 安富 信哉 氏(三条教区第22組
光濟寺・大谷大学特別任用教授)
- ◆ 講題 『帰敬式の意義について』
- ◆ 参加費 12,000円(1日目の宿泊・夕食懇親
会費、2日目の朝食を含む)懇親会
出席で宿泊なしの場合は、8,400円 講
義のみは1,000円
- ◆ その他 詳細につきましては、別紙案内をご参
照ください。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

宗祖聖人七百五十回忌記念企画

親鸞展開催について 開催案内同封

このたび、新潟日報社主催で標記展覧会が新潟三越にて下記の通り開催されますので、多数ご覧くださりますようご案内申し上げます。

- 1 名称 親鸞聖人 750 回忌記念企画親鸞展
- 2 会期 平成 22 年 10 月 13 日(水)
～18 日(月)*6 日間
- 3 会場 新潟三越 7 階特設会場
- 4 入場料 一般 800 円(前売り 700 円)
中・高生 600 円
- 5 主催 新潟日報社
- 6 後援 NHK 新潟放送局・BSN 新潟放送・NST・TeNY テレビ新潟・UX 新潟テレビ 21・エフエムラジオ新潟・FMPORT79.0

※前売り券は三条教務所でも取り扱っております。

本山御遠忌法要について

団体参拝について

- ① 引率責任者に本山から「確認書」が送付されておりますので、内容をご確認ください。お問い合わせは団参受け入れセンターまでお願い申し上げます。
- ② 本山で参拝席抽選がありました。次は教区御遠忌委員会法要団参教化部会で調整いたします。11月30日頃指定席券と座席表が本山から教務所へ送付されます。
- ③ 2011年1月頃には、確定一覧が教務所に、「確定書」「手引き」「しおり」「運行計画表」が引率責任者に、本山から送付予定。

2011 年	
第一期法要	3 月 19 日～3 月 28 日
第二期法要	4 月 19 日～4 月 28 日
第三期法要	5 月 19 日～5 月 28 日
御正当報恩講	11 月 21 日～11 月 28 日

御遠忌関連各種行事について

『真宗』誌9月号・10月号に各種イベント案内が掲載されております(下記参照)。今後も御遠忌関連記事が掲載されますので、お見逃し無くご覧ください。

10月以降『御遠忌ガイドブック』が本山から届きますが、各種行事等の参加申込につきましても、締め切り前にお申し込みくださいますよう、お願いいたします。

記

- ① 御遠忌一般団参募集要項(9月号・10月号)
 - ② 御遠忌法要出仕要項(9月号・10月号)
 - ③ 御遠忌法要「稚児」募集要項(9月号・10月号)
 - ④ 御遠忌讃仰奉仕団募集要項(9月号・10月号)
 - ⑤ 御遠忌音楽法要及び同研修会開催要項(9月号・10月号)
 - ⑥ 「子ども御遠忌～しんらんさまに会う～」参拝案内(9月号・10月号)
 - ⑦ 青少年交流事業「青年の翼浄土教のルーツを尋ねて」(9月号・10月号)
 - ⑧ 御遠忌讃仰 供茶・讃仰茶会(10月号)
 - ⑨ 御遠忌讃仰 本願寺能(10月号)
- そのほか掲載されておりますので、改めてお知らせいたします。

御遠忌テレビラジオ番組 放送案内同封

御遠忌の放送が始まりますので、お知らせいたします。

詳細は同封のチラシをご覧ください。

教区御遠忌お待ち受け法要について

各種案内既送

- ①期 間 2010 年 11 月 5 日(金)～8 日(月)
- ②場 所 三条別院
- ③形 態 教区お待ち受け法要兼三条別院報恩講
- ④帰敬式 11 月 6 日(土)日中後鍵役により執行
11 月 7 日(日)日中後鍵役により執行
11 月 8 日(月)午後門首により執行
- ⑤日程概要(予定)

日	午 前	午 後
5	田んぼアート採納式 坊守会採納式 11:00 音楽法要	12:00 おとぎ 13:00 講話 田口ロランディ氏 14:00 初逮夜 15:00 御伝鈔 (上巻) 16:00 終了
6	07:00 初晨朝 07:45 法話 (約30分) 10:00 初日中 日中後、帰敬式	12:00 おとぎ 13:00 法話 武田定光氏 14:00 中逮夜 (御参修) 15:20 御伝鈔 (下巻) 16:00 終了
7	07:00 中晨朝 07:45 法話 (約30分) 10:00 中日中 日中後、帰敬式	12:00 おとぎ 13:00 法話 真城義麿氏 14:00 結願逮夜 御俗姓 15:20 文弥人形 16:00 終了 18:30 記念懇親会

8	07:00	結願晨朝	12:00	おとぎ
	07:55	法話 (約30分)	13:00	帰敬式準備 整列開始
	10:00	結願日中 (御親修)	13:30	帰敬式 (門首執行)
			14:30	記念講演 小川一乗氏
			16:00	終了

◎出仕について:

役職者はもちろん、全寺院の御出仕をお願いいたします。締め切り10月15日。

◎帰敬式受式について:

原則として各組の団体参拝に御参加くださるよう御配慮をお願いいたします。締め切りを過ぎておりますが、今後、各組団参加者の受式希望者がおられる場合、可否を教務所までお問い合わせください。人数により、本山選定法名にて受式出来る場合がございます。

◎参拝について:

近隣の15組を除き団体参拝を原則とし、おとぎ・帰敬式と共に、各組ごとに募集いたします。各組長締め切り10月15日。

◎記念懇親会について:

門首をお迎えし、11月7日午後6時40分から燕ワシントンホテルにて記念懇親会を開催いたしますので、多数御参加ください。締め切り10月15日。

組 御遠忌お待ち受け法要(大会)について

【開催予定期日】

2010年	
第12組お待ち受け法要	
期 日:	2010年10月24日(日)
記念法話:	安原晃氏

御遠忌讃仰事業の予定

本山の御遠忌讃仰期間中の2011年3月31日に、教区の日として本山で田んぼアート採納式や展示企画等を開催いたします。

◎教務所別院主催御遠忌団参について

明年3月に出発する教務所別院主催の御遠忌団参について、人数が少ないため、募集期間を延長してさらに募集することになりました。人数は第1班・第2班とも40名ですので、ご参加をお待ちいたしております。

第1班

旅行日: 2011年3月20日(日)~ 3月22日(火)

■所要経費: お一人 57,000円(宴会費込)

■募集人数: 40名(満員になり次第、締切らせて戴きます。)

■バス乗降箇所: (新潟駅南口・三条教務所・長

岡 I.C・柏崎 IC)

第2班

旅行日: 2011年3月21日(月)~ 3月23日(水)

■所要経費: お一人 55,000円(宴会費込)

■募集人数: 40名(満員になり次第、締切らせて戴きます。)

■バス乗降箇所: (新潟駅南口・三条教務所・長岡 I.C・柏崎 IC)

※お申し込みは、教務所まで御連絡ください。

教化委員会からのお知らせ**三条教区教化研修テーマについて**

教化委員会企画委員会において、これまでの教区教化研修テーマ「共にといえる 人生を生きよう」について、教化委員会任期満了までの間、継続する運びとなりました。

教区教化委員会を中心に、このテーマについて考察を重ねて、次の教化委員会へ引き継ぐべく、【「共にといえる、人生を生きよう」に憶う】と題して、順番に執筆、毎月『教区通信』に掲載いたします。

第24回目は、研修部会委員の山代英世氏です。

「共にといえる、人生を生きよう」に憶う

第21組 浄泉寺 山代 英世

このテーマで、教区の教化事業が企画されて、はや何年になるのであろう。確か『願生偈』の「普くもろもろの衆生と共に、安楽国に往生せん」(聖・138頁)という言葉を読んだ「共生」の課題を信心の内容としてお尋ねした事であったかと思っている。改めて問われてみると、何と共に「共にといえる」のかという問題である。安田理深先生が、この『願生偈』の講義の中で、「世尊、我一心」という「一心帰命」の帰命という産声に五つの内容が秘められていると確かめておられる。

一つは、ご存知のように「世尊、我一心に、尽十方無碍光如来に帰命して、安楽国に生まれんと願ず。」と頌偈される。本願成就の「一心帰命」から「礼拝・讃嘆・作願」の五念門が始まってくると。人間の立場からの「礼拝・讃嘆・作願」という歩みではなく、如来なる働きが「礼拝・讃嘆・作願」として届けられている。そこに初めて私どもに「共にといえる、人生を生きよう」という出立ちが始まってくると云われるのでしよう。「世尊」というお呼びする働きにお会いして、初めて「共にといえる、人生を生きよう」という産声が上げられる。「世尊」という、釈迦・諸佛がおられて、「釈迦・弥陀は慈悲の父母」という親がおられて、「共にといえる、人生を生きよう」という産声が地上に上げられる。親の産声であり、子の産声で

あり、世々生々の父母兄弟の産声である。

二つめは、「我依修多羅、真実功德相に依って、願偈を説いて総持して、仏教と相応す。」と、人類の歴史に届けられている「修多羅」、つまり「経」です。経系である。経系に貫かれて、始めて横系のそれぞれの人生が織り成されるのである。それも、「大乘の諸経」の「修多羅」であると。民族・宗教・言葉・文化を超えて、時代・地域を超えて人々に思い出され、頷かれてきた、大きな乗り物のような歴史的な・社会的な願いが届けられておると。つまり、「貴方は何を依り所として人生を生きているのか」という事柄が問われてくるという事でしょう。それが「不実の功德・真実の功德」として味合われる。人間の立場のあらゆる行為は「有漏れの心より生じて」と、みな顛倒であり、みな虚偽であると信知せしめられ、促す如来の働きが真実の働きであると信知せしめられる。つまり、人間と如来の分限が自覚せしめられる訳であろう。

三つめは、「故に我、願わくは、彼の阿弥陀佛国に生まれん。」と、「国土十七種の功德莊嚴」が頌偈される。浄土に生まれた人々が、生まれせしめた親の願い、「願心」を尋ねてその味合いを「共にといえる、人生を生きよう」という内容として、生まれ生きようという意欲が始まってくる。正に「願生彼国」という、「阿弥陀佛国」が故郷として南無阿弥陀仏を主(あるじ)として八種の「主功德成就」が頌偈される。生み出す親なる願心が尋ねられ、そこに生まれ往く「一子」なる主体が出立ちする訳であろう。「釈迦・弥陀は慈悲の父母」の願いに生まれ生きるのが「本当の私」でございましたという懺悔と讃嘆が「故に我」という、大地に立脚する「我」である。

四つめは、「我願わくはみな往生して、佛法を示すこと佛のごとくせんと。」と、阿弥陀佛国に生まれた主体(一子)の自覚に基く「使命」が「我願わくは」と始まってくる。四つの菩薩行、三宝(佛・法・僧)ましまさぬ世界、時代・地域をの只中で、親のご苦勞、法蔵菩薩さまの「兆載永劫の御修行」の苦勞を四つの味合い、「菩薩功德莊嚴」として展開している。つまり、具体的には南無阿弥陀仏という名号の働きが四つの内容として味合われる訳である。

五つめは、「我論を作り、偈を説きて、願わくは弥陀佛を見たてまつり、普くもろもろの衆生と共に、安樂国に往生せん。」と、「回向門」が説かれている。つまり、未来世へのメッセージである。天親菩薩さまの『浄土論』も、親鸞さまの『教行信証』も、現代の我々に届けられている、遺言が「浄土からの文類」として束ねられ、要約すれば『正信偈』として我々に届けられている。「道俗時衆、共に同心に、唯この高僧の説を信ずべしと。」と、「未来世一切衆生と共に」という内容である。

つまりね、この「共にといえる、人生を生きよう」というテーマの中に、過去と人々の願いと共に、未来世の子どもたちと共にという内容が現生の人々と共に「人生を生きよう」という決意、出立ちの決意が宣言される訳であ

る。一人びとりが「五濁悪世」という、「譬えば、大海を一人升量せんに」(聖・14頁)という出立ちの時を、現在ただ今、いただいておりますのであろう。歴史に生まれ、世界を生きる。それが一人びとりの御約束事として始まってくる。そういう「遠く通ずるに」という、曠劫多生のご縁として宿された縁(えにし)が「共にといえる、人生を生きよう」という産声の大地なのであろうや。

南無阿弥陀仏



※次回は研修部会委員の清水寛志氏(第20組通心寺)よりご執筆いただきます。

同朋の会結成のご紹介



笹山同朋の会[23組 慶恩寺:川崎正利住職]は慶恩寺がある新潟市北区笹山の地域の方々を中心に毎月13日集いが持たれています。

当初は勤行会としてスタートしたそうで、その頃は男性の出席者がほとんどだったとのこと、時代と共に、昨今は女性の方の出席が大勢とのこと、「同朋の会提灯」と「同朋の会奉仕上山の旗」をお届けした9月13日も、慶恩寺のご住職を中心に勤行(正信偈:草四句目下、念仏三淘、和讃:弥陀成仏のこのかたは 次第六首、回向:願以此功德)を集まられた女性の方々が大きな声で勤められていました。勤行の後、ご住職のお話、座談会と午後一時半から二時間余り、和やかに集いが開かれていました。

※同朋の会結成届けについて

寺院・教会や地域などで同朋の会が結成されましたら、結成届を教務所にご提出ください。届出の提出されました同朋の会には、「同朋の会提灯」や「同朋の会奉仕上山旗」が無償で贈呈されます。

(贈与は1回。提灯や上山旗には申請されました会の名称が入ります)また、「同朋会員結婚記念念珠」が無償で贈られます。詳しくは教務所(森・北島まで)

「第16回全戦争犠牲者追弔法会」



去る8月29日、三条別院本堂にて「第16回全戦争犠牲者追弔法会」が開催された。

戦後50年を迎えた年の1995年から開催し、「全世界の戦争による、あらゆる犠牲者の痛みを偲ぶとともに、未来に向かって非戦を誓い、平和と平等な国土を願う」を基本趣旨とし、今年で16回目を迎えた。法要では、今年度新たに得度を受式された方にもご出仕いただき、新鮮さが加わった。

法要後には、同朋会館にてGND fund様のご協力のもと、核兵器廃絶への願いをテーマとしたドキュメント映画「GATE」の上映会を行った。「核なき世界」を願い、唯一の被爆国である日本人として、私たちに何ができるのだろうか。それぞれが問いを深め、課題を共有することができた。

声明基本講習会



去る9月17日、三条教区同朋会館にて声明基本講習会が開催された。講師を当部門のスタッフで担当し、得度受式を控えた方対象の「得度班」、同朋唱和勤行集を中心とした「研鑽班」に分け、28名の参加

者が集まった。

このたびの声明基本講習会を通して、真宗大谷派僧侶としての意義並びに心得を学ぶことができたのではないだろうか。

また、10月20日には、既にご案内のとおり「秋季声明講習会」が開催されるので、ぜひご参加ください。



教務所からのお知らせ

ラジオ放送「東本願寺の時間」

○テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」

○講師 (事情により変わる事があります)

★8/29～10/9 埴山 法雄 氏(高岡教区)

★10/10～11/20 小川一乗 氏(北海道教区)

★11/21～12/31 酒井義一 氏(東京教区)

○放送局 新潟放送(BSN)

*新潟県全県をカバー

・小出エリア 1026KHz

・中越エリア 1062KHz

・下越エリア 1116KHz

・塩沢エリア 1485KHz

・上越エリア 1530KHz

○時間 毎週金曜日 5:00～5:10

○提供 吉運堂様

◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗門が1951年11月よりラジオ伝道として取り組んできている「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きになれます。

また、現在は、宗祖の御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を番組テーマとして様々な方より法話をいたしておりますが、現在、宗派のホームページである「しんらんしょうにんホームページ」

(<http://higashihonganji.jp/index.html>)にて、これまで放送された番組をお聴きいただくことができます。

是非、ご聴取ください。

◎英語版宗派ホームページの開設

このたび、英語版真宗大谷派(東本願寺)ホームページを開設しましたのでお知らせします。

記

アドレス <http://higashihonganji.or.jp/english/>

◎教務所メールアドレス変更

教務所のメールアドレスが変わりましたので、お知らせいたします。

記

新アドレス: sanjo@higashihonganji.or.jp

◎本山所蔵品出展のお知らせ

このたび、9月25日から11月7日まで京都市美術館において開催される『京都市立芸術大学創立130周年記念展「京都日本画の誕生－巨匠たちの挑戦」』に対して、下記のとおり出品協力することとなりましたのでお知らせいたします。

記

- 1 展覧会 京都市立芸術大学創立130周年記念展「京都日本画の誕生－巨匠たちの挑戦」
- 2 会期 2010年9月25日(土)から11月7日(日)まで
- 3 会場 京都市美術館
- 4 主催 京都市立芸術大学・京都市美術館・毎日新聞社
- 5 出品物 衝立2基
 - (1) 桜花図／松・藤花図(望月玉泉筆) 御影堂後堂設置
 - (2) 波涛大鷹図(久保田米僊筆) 阿弥陀堂後堂設置

◎本山自衛消防隊受賞のお知らせ

9月に開催されました下京自衛消防隊訓練大会では、隊員一同、日ごろの練習成果を十分に発揮し、出場した三種目すべてにおいて最優秀賞を受賞、三冠を達成しました。消火器の部は初、屋内消火栓の部は2年連続、小型動力ポンプの部は3年連続の最優秀賞でした。今後も、東本願寺自衛消防隊員は、本廟護持の精神のもと、一層、防災意識を高め、技術の向上を図ってまいります。宗務所での壮行会のご声援、ありがとうございます。

◎いのち愛人権展におでかけください

部落差別をはじめ、一切の差別を撤廃し、平和と民主主義、人権の確立という願いを、すべての新潟県民のなかに確かなものとしていくことをめざし、「いのち・愛・人権展」を1989年に新潟県新潟市で開催して、今年で22回目を迎えます。

今年は「いのち・愛・人権」新潟展として次の内容で開催されます。

是非、ご参加ください。

◆期間 2011年1月26日(水)～2月1日(火)

◆会場 りゅーとぴあ(新潟市民芸術文化会館)

◆記念講演会

・日時 1月26日(水)15:00～16:50

・場所 りゅーとぴあ

・講師 荒木康雄氏

(全国人権教育研究協議会事務局長)

・講題 部落問題と人権教育の課題

・参加費 無料

・問合せ 新潟市 市民総務課市民相談係

(☎025-226-1025)

◎部落解放研究第44回全国集会開催

開催案内同封

「部落解放研究第44回全国研究集会」について、「実行委員会」並びに「同和」問題にとりくむ新潟県宗教団連帯会議(新潟同宗連)より、参加要請がありました。

つきましては、お待ち受け法要兼別院報恩講直後ということで、当教区といたしましては参加に難を感じますが、組や有志の学習会の場等として、参加協力賜りますようご案内申し上げます。

記

1 日時 2010年11月9日(火)～11日(木)

2 主会場 朱鷺メッセ

3 申込方法 同封の参加申込用紙に必要事項を記入のうえ、三条教務所までお申込ください。

4 参加費 4000円(先着20名まで助成。)

弁当代・フィールドワーク参加費は別途各自負担となります。

5 申込締切 10月20日

◎第35回正力松太郎賞について

教務所あてに案内が参っておりますので、お知らせいたします。

- 1 趣旨 財団法人全国青少年教化協議会(全青協)は、青少幼年の心の荒廃を憂い、仏教精神によって情操を高めたいと、当時の読売新聞社主・正力松太郎氏の提唱で仏教教団68宗派と読売グループが協力し合って設立いたしました。正力松太郎賞は、全青協の事業目的である青少幼年の育成活動に常日ごろ尽力し、社会の情操教育振興に努力している個

人・団体を顕彰するために贈られます。この表彰は、青少年教化活動を飛躍的に発展前進させるうえにも、また故正力松太郎氏や仏教界の念願を広く社会に生かすためにも、極めて意義深いものであります。

2. 主催 財団法人全国青少年教化協議会
3. 後援 読売新聞社 日本テレビ放送網株式会社 株式会社よみうりランド 株式会社報知新聞社
4. 賞金総額 本賞:100万円 青年奨励賞:30万円
5. 表彰対象 本賞:仏教精神にもとづき、長年にわたって青少幼年の宗教情操教化活動振興に顕著な業績をあげ、今後も活躍が期待される以下の個人または団体。
 - ①日曜学校、子ども会など寺院における青少幼年を対象とした各種の集い、その他の活動を行っているもの。
 - ②文学、音楽、美術、演劇、スポーツ、福祉、国際交流、環境問題などの文化・社会活動を行っているもの。
 青年奨励賞:全青協の事業目的である仏教精神にもとづいた青少幼年の育成活動に常日ごろ尽力し、今後もさらなる活躍が期待される40歳以下の個人、もしくは個人が運営する団体。
6. 推薦 ①全青協加盟教団、府県地区青少年教化協議会、全青協関係者などのほか、一般からの推薦、自薦も受け付けます。
②全青協は、必要と思われる場合には関係機関および団体にその推薦を求めることがあります。
7. 応募手続 規定の用紙に所定の事項を記入して、締め切り日までに全青協事務局内「正力松太郎賞」選考委員会あてに送付してください。(候補者推薦書は全青協、または府県地区青少協、仏教会、各宗派などに用意してあります。また、ホームページ上からもダウンロードできます。) 業績を審査するうえで参考となる資料(写真、新聞記事、テープ、CD、DVD、ビデオ、出版物等)があれば添付してください。
8. 締め切り 平成22年12月15日(必着)
9. 選考方法 選考委員会により審査決定します。
10. 発表 平成23年4月、読売新聞紙上その他で行う予定です。
11. 表彰 平成23年5月、東京都内で行う予定です。

◎教区他 主な行事予定一覧 (9月23日現在)

日程は変更となる場合があります。諸行事の重複等を避けるうえで参考になるよう、なるべく把握している行事は掲載しております。
日程は諸事情により変更される場合があります。

日	時	行事内容
2010年		
10月		
10/1		～3日 10組推養後期教習上山 15組女性研修 17組門徒会
10/2	13:00 14:00	佐渡組組会 仏教文化講演会 真宗学院 茶会事前準備会場使用
10/3		宗徧流茶会
10/4		22組組会 20組組門徒会
10/5	16:00	教区女性研修会 15組推進員養成講座 御遠忌委員会団参法要教化部会 19組出退作法講習
10/6	13:00	15組門徒会
10/7		教区推連協研修会
10/8	14:00	10組組門徒会 御遠忌教化伝道部会+讃仰事業会議
10/9	14:00	真宗学院 13組門徒講座
10/13	14:00	15組有縁会 児連仏青会議 24組門徒会参拝 ぞうきん講
10/15	14:00	若手寺族研修スタッフ会議 10組門徒会
10/16	14:00	真宗学院
10/19		差別と真宗基礎講座 別院奉仕団
10/20	09:30	秋季声明講習会
10/21	15:00 17:00	出退作法講習会 掛役習礼
10/23	14:00	真宗学院
10/24		12組お待ち受け法要
10/25		お待ち受け法要兼報恩講実行委員会 おみがき奉仕団
10/26	14:00	15組出退作法講習
10/30	14:00	真宗学院
11月以降の予定		
11/5		～8日 教区お待ち受け法要兼三条別

	院報恩講
11/6 14:00	真宗学院報恩講参拝
11/9	～11 日部落解放全国研究集会(於: 朱鷺メッセ)
11/13 14:00	真宗学院
11/15 14:00	16組差別と真宗学習会 同朋の会教導連絡協議会総会
11/20 14:00	真宗学院
11/21	～28 日本山報恩講
11/27 14:00	真宗学院
11/29	15組有縁会
11/30	正副組長・組奨励員・同朋の会教導 任期満了
12/3	～5 日 15組推進員養成講座後期上 山
12/4 14:00	真宗学院
12/6	～7 日法灯の集い
12/7	～8 日秋安居
12/9 13:00	16組坊守学習会
12/11 14:00	真宗学院
12/18 14:00	真宗学院 ～19 日 18組お煤払い奉仕団
12/23	選出教区会議員・教区監事(参事会 選出)任期満了
2011年	
1/21	～22 日保育 園長・設置者研修会
2/26	～27 日真宗学院一泊研修 保育講習会
3/1	～2 日教学研究会(三木彰圓氏)
3/5	～6 日 15組推進員養成講座(別院)
3/19	～3/28 本山御遠忌第一期法要
3/29	～4/18 本山御遠忌御遠忌讃仰
3/31	御遠忌讃仰三条教区の日(於本山) 御依頼適正審議会委員・「差別と真 宗」協議会員任期満了
4/1	～3 日本山春の法要
4/4	声明基本講習会
4/19	～4/28 本山御遠忌第二期法要
4/29	～5/18 本山御遠忌御遠忌讃仰
5/19	～5/28 本山御遠忌第三期法要
6/4	保育大会・新任研修会
6/30	教区教化委員・教区坊守会役員・教 区御遠忌委員(所長選定)任期満了
9/30	査察委員任期満了
11/5	～8 日三条別院報恩講
11/21	～28 日本山御正当報恩講
2012年 同朋会運動50周年	
3/31	教区門徒会員・教区監事(常任委員 会選出)任期満了
4/30	参議会議員任期満了

駐在教導のつばやき

～森之篇～

◇新聞、テレビを見れば取り上げない日が無い程に登場し、本屋さんにはこれに関連した書籍のコーナーが必ず設けてあり、ホームセンターにもこれに関連した食品、玩具等々商品が陳列してあり、場合によってはソノモノが売られていることさえある。さて何でしょう？クイズではないので続けますが、所謂、犬や猫を代表格としたペットたちのことであります。

◇犬や猫を飼う家は昔からあったが、俗にいうこんなに大きな商業活動(ペット関連産業)に展開するとは私の子どもの頃は想像できなかったし、また、飼うということは、昔は家(家族全体)を単位としていたように感じます。今はどうかというと、家族の構成規模が小さくなったせいaka家族全体で飼うというより、人(個人)が飼うというような状況がより強くなってきているような気がします。

◇いずれにしても多くの人たちがペットを飼う時代となりました。そのなか、たとえば犬を例に考えると、飼い主は日々散歩をすることになり、片手には首輪のロープを、片手には後始末用の袋を持つことになります。(これは常識です・必須アイテムです**強調します**)

希に首輪ロープしか持たず、愛犬が歩みを止めると周囲に素早く目を配る飼い主もいることはありますが。(じつは、私の住処のまわりにも出没するのです)

◆前置きが長くなってしまいましたが、私自身もペット産業の恩恵を受けているものでして、ご多分に漏れず子どもたちが幼かったとき、「必ず世話をするから」とせがまれて犬と猫を飼い始め、見事に世話をする羽目になった挙げ句に、犬さんは上越から鹿児島、猫君はさらに三条と大移動をすることとなり、その大移動が、彼らの寿命を縮めることになってしまったと看取る時に強く感じたことを思い出します。(彼らのことに触れ始めると紙面がいくらあっても足りないので今回はこのくらいにしておきます。)

◆9月20日付新潟日報の9面(総合)の「ペット葬祭業」の記事。この葬祭業に基準を定める法律が無い現状の中、宗教関係者を始め各方面の職種の方々が随分関わっていると感じつつ(入り乱れていると言ったほうが良さそうですが)、大半のペットの彼ら(彼女ら)は飼い主より早くに寿命を全うしてしまうなか、飼い主には最後まで見届ける覚悟とともに弔う準備も必要という(日本ペットロス協会会長の談)を読みながら、欲の世界、情の世界 etc…、あらゆることや思いが入り混じる中、そこから離れられず、むしろどっぷりと浸りながら生きている私を感じているところ(どこで体や心のバランスを保っているのか？保っていないのか?)。

所員のささやき ～竹内之篇～

急に冷え込みがあったり、夏に戻ったような日差しが

差したりで、如何にも秋めいた気候となりました。エネルギー発作や体調の崩れにご注意ください。

さて、時折、結構真剣に御聖教に目を通さして貰ったりするんですけど、広大な砂場で砂遊びに興じるが如き有様で、三経もますますワケ分らなくなるといった趣が露呈しているところです。最近はじめたMSN上のマイブログでも、あーでもない、こーでもない、課題を持っては取り組みを展開するんですけど、如何にも力及ばずして、自身敗北してのまんま、みたいな？遊戯の中身よりも仲間が見つかるかもしれないことの大切さはありますけど。

教区におかれても、本山が御遠忌御修復事務にエネルギーを殺がれていても、教学の深まりと広がりが見られますが、これまた寺務、地域、組、教区と事業が多すぎ、ましてや兼務の御寺族、家族に手がかかる状態の御寺院におかれては、もはや飽和状態を通り越しているのだろうと推察いたしております。

一方、本山でも、御遠忌体制と言うことで、職員研修と辞令伝達が行われ、教務所員も本山の御遠忌本部事務室兼務を発令され、総長はじめ総務部長、各部長の趣旨と業務の概要について説明と質疑応答が行われました。

そこでホンネをささやきますと、内容はともかく、公務だけでもこの忙しい中で、(出来るんかいっ)(難しいことは出来ませんよ)(・・・簡単なことすら出来んこともあるけど)の私です。

この業務状況の中で、取り組むべき多くが先送りされ、遅れてゆくことが気がかりとなっています。特に御遠忌事業が無い状態でも残業続きだったことを思い出しますと、如何に無理があるか、如何に浮いてしまっているかと思わざるを得ません。

改めて、宗門とは何かという問いが私(たち)に突きつけられ続けていることを思いつつ、実際には個としても、有志や全体の集まりとしても、先送りを余儀なくされてきたのではなかったでしょうか。しかし、既に御教えを賜った我らという喜びを除きますと、いや、そこからさらに、不満ややりきれなさが日頃から出ますが、実際に動いてゆく、姿勢となってみえてこない限り、意味を持たない、とも思います。

世間の動きも激し過ぎて、ついていくどころか、遙か過去に置き去りにされているが如き印象もあります。気がついたらとんでもないことになっていた・・・というのでは、笑えません。一応やけくそでバカ笑いでみるつもりですけど。

社会問題とか政治とか経済とか以前に、社会とか社会生活自体が煩わしく、仏教的にはみんな間違っている、ような気がします。もっとも、自身を含めて多かれ少なかれ間違っている状態しかない、のでもありますから、事情は複雑です。

目睫の事業には、日頃淡々と取り組む、同宗連や

人権同和センターなど宗務としての差別問題への取り組みでもありますが、このたび初の部落解放研究全国集会が朱鷺メッセで開催される運びとなりました。

これがまた頭が痛いんですけど、11月9日から11日までと、教区お待ち受け法要兼別院報恩講の直後で、かつ、本山での教務所員研修と重なっていて、如何ともし難い状態です。そんなわけで、何とか、足をお運び賜りたく、案内状を添付させていただいております。

さらに、日本と世界の具体的問題例は多過ぎることもあり省略しますが、また具体的取り組みはその任にあり力もある方々が進められることでしょうが、言いたいのは、「如何なる国(土)を願うのか、何が人々に望まれているのか」を明らかにし、その内で取り組めそうなことには、直ぐに取り組みはじめることが大切だ、ということです。

今回、国連総会があったり、中国との領海を巡る軋轢があったりする中で、改めて、そのことを深めてみなくては、と思いました。何でも、善い方向へは思いっきり努力してもほんの僅か、悪い方向へは雪崩を打って簡単に突き進む、的な危機感と不信感を持っていますのは、ペシミスティックに過ぎるでしょうか？一方では、オプティミスティックなんですけど、誤った紛争や餓死や死に至る汚染を見ていると、信じろと言われても無理なんすねー。

一人を、私を課題とし、一人から、私からはじまる仏教ですけれども、広くいのちともなる世界においても、真宗的にもいくつかのポイントがリストアップされざるをえないのでは無いでしょうか。48願の国と、世の中安穏なれ、仏法弘まれ、と。弘むべき仏法の広深過ぎて・・・。

新潟親鸞学会からのお知らせ

入会申し込み・お問い合わせは事務局まで。

新潟親鸞学会事務局 / 超願寺内 (〒951-8061 新潟

市中央区西堀通二番町 ☎025-222-2820

新潟親鸞学会デスク :

<http://niigata-shinran.cocolog-nifty.com/blog/>

